



読書の時間 感想特別号

高体連中、学校では読書の時間があり、
1, 2年生は一時間、読書に取り組みました。

春季高体連中の読書の時間での感想から、たくさんの人が
読んでくれそうな本を購入して図書館に置きましたよ。
気づいてました？
今回も、全部読ませてもらいました。その中で米高読書の
和がさらに広がりそうな本は購入していきたいと思えます。



感想いろいろ!!

“読書の時間”の感想から多くの方が読んでいた作家さんは東野圭吾さん・住野よるさん・池井戸潤さんです。春と変わらず人気ですね。

中には太宰治『人間失格』／夏目漱石『こころ』
芥川龍之介『仙人』／島崎藤村『夜明け前』
ジョージ・オーウェル『一九八四年』
オルコット『若草物語』／モンゴメリ『赤毛のアン』
三島由紀夫『美しい星』／宮澤賢治『銀河鉄道の夜』
ジョン・ドイル『シャーロック・ホームズの事件簿』

など名作と呼ばれる本を読んでいる人もいました。

『三国志 一天狼の星』
北方謙三著
第一巻を途中まで読んだのですが、世界史の授業で習ったことがたくさん書かれたりしていて、「あ、知ってる！」という楽しさを感じながら、読むことができました。(1年)

『未来のミライ』 細田守著
この本を読んで、1番印象に残っている場面は、「何ごとにもはじめてはある」という言葉です。何でもためらわず、失敗を恐れず挑戦したいと思いました。(2年)

『マスカレード・ホテル』 東野圭吾
東野圭吾の作品を読むのは初めてだけど、中々にもおもしろい作品だった。人を疑いの目で見る刑事と信頼の目で見るフロントクラークがだんだんと尊敬し合い、かみあっていくところがおもしろかった。来年の映画も楽しみです。(1年)

『去年の冬、きみと別れ』
中村文則著
まだ、途中でしか読んでないが、最も印象に残ったのは、本を書くための取材を申し込まれた人が僕の内面をさらすかわりに君の内面もみせてくれと要求するところだった。人の話をきく時は自分をさらけ出す必要があるのだと思った。(2年)

『物理の疑問』 左巻健男著
未来に行くよりも過去に行く方が難しいと書いてあって、しっかりと理論だてて説明してあり、とてもおもしろいなと思った。パラドックスなどもとても興味深かったです。(2年)

『夜明け前』 島崎藤村著
第一章に「そりや馬籠はこんな峠の上ですから・・・お天気の好い日には、遠い伊吹山まで見えることがありますよ」と書かれていた。長野県から伊吹山が見えるだなんて、昔の人の目はよかつたんだろうか・・・？ (2年)
馬籠＝以前は長野県、現在は岐阜県です。

『星やどりの声』 朝井リョウ著
主人公として登場する光彦の、何をやっても上手くいかない様子が今の自分と重なって印象に残った。でも、どこか優しく温かいこの物語から、不思議と勇気をもらった気がする。悩みや不安を抱えている人にピッタリの本だと思った。(1年)

『うまくいっている人の考え方』
ジェリー・ミンチントン著
この本を読んで人生の考え方がガラリと変わった。考え方を少し変えるだけで、日常生活の気分がガラリと変わるようなそんな1冊だった。今後人生を生きていく上で今読んでおいてよかったという内容だった。困った時はこの本を見ようと思うくらいいい本だった。(1年)

『僕はロボットごしの君に恋をする』
山田悠介著
以前から読みたかった本で、夢中になって約40分読んでいました。全く内容も知らないで読み始めましたが難しくなく読みやすかったです。未来の日本をテーマにした話で、結末がまったく想像できないので、早く読み終えたいです。(1年)

裏面に続く→→→

『いなくなれ。群青』 河野裕著
読み返してみると、後半につながる伏線がとても多くあることに気づき、おもしろいと思った。会話の中の例え話が特徴的だった。(1年)

『キノの旅Ⅱ』 時雨沢 恵一著
人それぞれだなと思った。国によってしきたりやルールが違って、今の世界に少し似ているなど思った。人の心情がよくわかる文脈でとてもよみやすくひきこまれるような本だった。(1年)

『世界は恋に落ちている』 香坂茉莉著
元々「世界は恋に落ちている」という楽曲があり、それをもとに書かれた本で、曲と重なる部分がたくさんあり、とてもよかった。主人公の子が吹奏楽部で共感できる部分もあり、おもしろかった。(1年)

『かがみの孤城』 辻村深月著
今年の3年6組が文化祭でこの本の演劇をしていたのを見て、前から興味があったのだが、今回すすめられて読んだ。演劇ではわからなかった細かい設定や内容までわかり、よりおもしろく読み進めることができた。実際にある物語を例に出して表現しているのもよかった。(2年)

『孫子の兵法』 田口佳史著
1つ1つ、漢文とともに超訳つきで解説と生き方についてのアドバイスが書かれていて色々と考えさせられました。1文の訳にしては長すぎるのでは？と思うこともありましたが、とても読みやすい本でした。将来について悩んでいる人や今の生き方について不安を抱いている人におすすめします。(2年)

『ハリー・ポッターと死の秘宝』
J,K,ローリング著
映画で見たことがあったので原作を読むと映像も頭に浮かんできたので本が読みやすかった。また帰って映画も見たいと思う。(2年)

『優しい死神の飼い方』
知念実希人著
すごく優しい話だと思った。ある犯罪をおかしてしまった金村という男に死神が「これからどうすればよいのか」ということには助言を与えず、自分で考えさせるところが印象に残った。(2年)

『契約結婚ははじめました。～椿屋敷の偽夫婦』 白川紺子著
建物目線で語られていて、今までこのようなタイプの小説は読んだことがなかったので、不思議かつ新鮮だった。所々にある椿の表現がきれいだと思った。まだ読み始めなのでもう少し読み進めたい。

『君と僕だけに聖夜は来ない』
藤宮カズキ著
クリスマス、イブに主人公が告白するがヒロインに好きと言われると、彼女が死に、二日前に戻るというループもの。しかし、後半では普通のループものにはない急展開で驚きました。(1年)

『イノセント・デイズ』 早見和真著
この本を読んでマスコミの影響はすごいものと思った。私も普段ニュースなどで流れている情報をすべて信じていたが、真実は違うかもしれないという考えをこの本は持たせてくれた。(1年)

『アルジャーノンに花束を』
ダニエル・キイス著
一度読んでみたいと思っていたので、家の近くの図書館で借りてきました。序盤はストーリーの都合上ひらがなばかりなのでリタイアしそうになりましたがこの本の評判を信じて読み切りたいと思います。(1年)

『四畳半神話大系』 森見登美彦
登場人物たちの感情表現がとてもいいに描かれていると思う。また、そこまでファンタジーな設定がなく実在の街が舞台として扱われているので読みやすいし、現実味があってもおもしろい。主人公のダメ人間っぷりが、見ていて逆に爽快感があった。(2年)

『檸檬』 梶井基次郎著
一番印象に残ったのは最後の画集を積み上げた上に檸檬を置くシーンです。私はこの話の独特の雰囲気がとても好きなのですが、特にこの最後の爆弾をしかけ終わったところが色鮮やかできれいだなと感じました。(2年)

『あと少し、もう少し』 瀬尾まいこ著
最初は仲が悪く、バラバラだった6人が「駅伝」を通して1つになった姿に感動した。スポーツに詳しくなくても駅伝のルールは単純なので読みやすかった。梶井君(陸上部部長)が皆をまとめる姿がかっこよかった。何度も読みたくなる。(1年)

『コード・ブルー』 沢村光彦著
救命という緊張した現場で“助けられる命”と“助けられない命”を選択しなければならぬ医師の悲痛な思いがとても伝わってきて、とても難しいことで、そして悲しいことだと思いました。(1年)

すべてを紹介することはできませんでしたが、みなさんの感想は大変興味深く読ませてもらいました。「普段、本は読まないのですが、しっからはまりました。」「まだ途中なので、最後まで読み切りたい。」と書いている人もいました。読書の秋への誘いは効果ありだったかな？これを読んで読みたい本があったら、ぜひ図書館へ来てみてくださいね。お待ちしております。